



カトリック

三軒茶屋教会

おとずれ

2015年3月1日発行 第60巻 第2号



四旬節号

四旬節

主任司祭 ミカエル 湯澤民夫 神父

2月18日の灰の水曜日から、四旬節に入った。「旬」は「十」を意味するので、四十日間の季節という意味である。その季節は、灰の水曜日から始まってご復活までの準備期間である。

一説によると、初代教会では、復活祭前の「断食」の期間を意味していたようである。つまり、復活徹夜祭には、大人の人の洗礼式が行われた。洗礼を受け、初聖体を受ける。初聖体というと、現在は、子供たちの初聖体式が意識されるが、大人の人は、洗礼の日に、堅信の秘跡と同時に、初聖体の秘跡を受ける。洗礼・堅信・聖体が入信の秘跡であるから、その日が初聖体の日であることは、ごく当然のことであるが、初聖体という意識はあまりない。

今日、あまり意識していないことかも知れないが、通常でも、聖体拝領前には断食をする。現在は、聖体拝領前の一時間であるが、五十年以上前には、三時間であったし、それ以前は、真夜中の零時から断食であった。水でさえ飲めなかったのである。歯磨きをしたうがいの水を間違っただけで、聖体を拝領できなかつた。しかし、今では、ちょっと長い説教する神父さんのミサなら、入祭直前まで何かを口にしている、聖体拝領までに一時間かかることがあり、「セーフ」である。

初代教会の受洗者たちは、聖書的な「四十」にちなんで、初聖体前の「四十時間」、断食を行っていたというのである。聖金曜日から復活祭までの「二日間」であった、という説もある。これは、三世紀には、聖週間の六日間に延ばされたとのことであるが、その間断食をしたのであろうか。次の世紀に入ると、イエス様の40日間の断食と試みの期間に倣って、40日間に引き伸ばされたとか。ところがキリスト教が公認されると、受洗者が増え、各々の受洗者に対する準備が十分できなくなったために、全信徒に復活祭の準備を求めるようになった、とのことである。それが、今日の四旬節の起源だとか。

こうした経緯の中から二つのことに注意を惹かれる。一つは断食である。ご聖体をいただくための準備、そして、イエス様の試みの期間に倣うこと。聖なるものに近づく準備として節制である。ただし、これは、『マタイ福音書』に出てくる祈り・断食・施し、いずれにしても神と自己の関係の中で完結する。もう一つは、洗礼の準備である。洗礼を受ける準備をしている人たちと共に時を過ごすという、共同体としての性格がある。四旬節の第一の主日には、洗礼志願式を行い、各週に洗礼志願者のために祈る。典礼的には、そうなのであるが、各自は、どうであろうか。新たに生まれる人々のために、何かを成し、共に時を過ごす、このことを心に留めてみてはいかがであろうか。

聖地イスラエル旅行記

ヨハネ 加藤 春一

今迄の人生で、幸運にも5大陸、55ヶ国を訪問でき、中国大連で育った時を含めて海外に約18年間過ごすことができた。今回55ヶ国目が念願のイスラエルであった。欧州ブリュセル駐在中はバチカンには数度訪ねることができたが、念願は聖地としてのイスラエルであった。日本には、北海道知床から南の石垣島まで全県を訪れることができた。昔、商社勤務時代、鉄鉱石を中心として資源やエネルギービジネスに深く関わり世界的ユダヤ系企業と関わった。現在のヘッドハンターとしての仕事でも、資源エネルギー産業で世界的なユダヤ資本、ロスチャイルドグループの企業とも取引があり、ユダヤ資本の世界的な影響力を身に染みて理解しているので、一度彼らのルーツのイスラエルを訪ねてみたいと思った。又現在バンクーバーの大学で教鞭をとっている長女が、豪州で幼少時にバイオリンを習い、この時バイオリニストの世界的奏者—メニューヒン、オISTRAFF、ハイフェッツ、パールマン等が悉くユダヤ人であることに気付いた。これはロングランを記録した「屋根裏のバイオリン弾き」でご存知と思うが、この音楽のことも動機の一つであった。今回T社主催でプロテスタント信者中心のツアーで以下の場所を訪問した。訪問地と印象を時系列的に、下記に記載する。

テルアビブ：(飛行場のある商業都市 人口40万人)

ヘルツェアリア：(IT都市 マイクロソフト・グーグル・アップル・インテル等世界的な会社の研究所が林立している。テルアビブ大学は10年でアメリカのマサチューセッツ工科大学と肩を並べるであろうと言われている。)

ヤッホー：(ペトロが夢で啓示を受けた古都で、地中海に面した美しい町だ。教会はフランシスコ会が管理しており、先ずフランシスコ会の存在に驚いた。)

カイザリア：別名ローマ皇帝シーザーの街でテルアビブから北へ海岸沿いに2時間で地中海が大変まばゆいばかりの光を讃えた美しい港町—聖パウロがここでローマへの布教をする前に2年間軟禁された処で有名。ここからローマへ旅たったことに思いながら、キリスト教が広く伝播される前の段階での、パウロの苦しみと、布教への情熱と冒険心に少し浸った。)

テイベリアとガリラヤ湖：(イエスがまさに、最初に布教を開始した町とその周辺でガリラヤ湖の美しさは素晴らしかった。オリーブ、ナツメ、菜の花、ザクロ等花々が咲き乱れ、多くの野鳥が囀っていた。ここは将にイエスが最初に布教を開始した地域で、マタイ伝の有名な山上の垂訓が伝えられた処であった。又ガリラヤ湖はペトロを含めて弟子に5つのパンと2匹の魚を5千人分に増やした奇跡の場所でもあった。ここの教会もフランシスコ会で更に修道院、宿泊設備も整った最も印象深い素晴らしい場所であった。ここで改めてフランシスコ会の影響力に頭が下がった。レストランでのペトロの魚も白身の淡水魚だったが鯛に似た味で、しょうゆをつけて味わせてもらった。更にイスラエルがアフリカ大陸、ヨーロッパ大陸、ユーラシア大陸の臍にあり、日本を含む世界の野鳥の会の人々の観察をしたい有名な国だということも知った)

ゴラン高原：(ガリラヤ湖の東の高原が国連信託統治で日本の防衛官も常駐したことがあり、地雷が未だ約3万発埋まっている所であった。麓まで行ったがガリラヤ湖の美しさとゴラン高原の自然景観は良かったものの戦争の傷跡と同時にパレスチナ自治区も通過したことから、厳しい状況を感じた処であった。)

ナザレ：(イエスが受胎告知を受けた場所で、ここも教会はフランシスコ会であった。住民は圧倒的にパレスチナ系の方々が多く、周辺はさながらアラブの街を歩いている感があった。)

ベツレヘム：(ここは将にパレスチナ自治区で、厳しい関門でチェックを受けた。この広場には、生誕祭の時は、数十万の信者が世界中から集まるらしい。ここもギリシヤ正教が管理していたが、隣のフランシスコ会の教会の方は趣があり、しっかりと祈りが出来た。)

死海：(海拔マイナス800メートルで、大きな湖で、神秘さをたたえている。塩分が多いことで浮遊体験をしてきたが、観光客の中で、ひときわ目立ったのが韓国人のキリスト教信者一行だ。同じように浮遊体験中に約30人の信者がワイワイガヤガヤ途中から、リーダーの指揮の下にアレルヤを唄っていたのが印象的だ。)

クムランの洞窟：(死海文書で有名な所で、初期キリスト教エッセネ派の集団生活と禁欲的な修道生活の一端が理解できた。又死海文書の一部も原文で眺めることができた。初期キリスト教の信者が厳しい修道生活を、このような所で過ごして現代に——繋がっているを感じながら、一瞬 長いキリスト教の歴史の悠久性に浸ることができた。)

マサダの砦：(ユダヤ人が紀元73年にこの砦で3年間のローマ軍との激闘の末、敗北し、流浪の民として、世界に散って行った場所である。ここと、エルサレムの「嘆きの壁」・「ダビデの墓」はユダヤ人が離散しダビデの建設した神殿の復興とその為のメシア到来を願う、ユダヤ人の大きな歴史の流れを実感できる場所である。)

エルサレム：(3宗教の聖地で、この100万弱の町の全貌を見渡せるオリーブ山からの絶景を眺めるとユダヤ教、キリスト教、イスラム教、すべての歴あんな出来事が壮大なスケールで目に迫ってきて、感動を超えた気持ちに暫し浸った。周囲には世界中の観光客がごった返していた。正面のユダヤ教のメシア到来まで扉を閉めた黄金門と、その後ろの黄金色のイスラム教の岩のドーム、その背後にある「嘆きの壁」、そして右手のキリスト教地区には聖墳墓教会、マリア永眠の教会を始め多くの宗派の教会、修道院が並ぶ。フランシスコ会の教会、修道院も遠方に眺めることが出来た。ゲッセマネの園は、やはりフランシスコ会の教会で、趣のある雰囲気であった。最後の晩餐の部屋は思ったより、こじんまりとし、質素な雰囲気であった。)

小生にとっての最後のハイライトは、ビアドロローサであった。——キリストが死刑宣告を受けて衣服を剥がされ、十字架を背負い、約1キロのゴルゴダの丘までの道のりと、十字架での受難、復活、昇天の全てのドラマが集約された、終着点の聖墳墓教会は、石段を踏みしめながら十字架の道行きを歩くことが出来た。この短い旅のハイライトであった。毎週金曜日にはフランシスコ会を中心とし

たカトリックの神父様、と信者がこのピア・ドロローサの道で十字架を背負って巡礼するとのことだ。階段の両側は全てパレスチナ系の人々の店で占められていたのは驚いた。仄聞するところでは、フランシスコ会の新神父(三軒茶屋教会に神学生時代に居住)が、ここに昨年未まで仕事をされていたようで、仕事の様子は最近のフランシスコ会海外宣教ニュースに寄稿されていたので詳細はこの寄稿文を参照願いたい。)以上 訪れた場所毎に時系列的な印象を記したが、最後に全体の印象を述べたい。

1. イエスに関わる殆どの場所でフランシスコ会の教会と、フランシスコ会の影響力が大きいことは、非常に印象的であったし嬉しかった。
2. 世界の歴史的、地政学的、宗教的中心で小国ながら世界に最も影響を与え続けているのはバチカンとイスラエルであることを実感できた。
3. 軍事的にも政治的にも厳しいイスラエルだが、ユダヤ教徒とイスラム教徒の間の平和と融和を具体的に推進できるのは、この地の2%のマイノリティーのキリスト教徒であるし日本人も貢献できるのではないかと思った。
4. バチカンの世界戦略はイスラムの穏健派と対話してイスラムの過激派を抑制すると聞くので、宗教的対話を促進して中東平和を実現してほしい。カトリック信徒としてはイスラエルの実情を広く知ってもらい、同時に以下のアッジジの聖フランシスコの祈りを捧げて平和実現の為に少しでも貢献して行きたい。
そして最後にアッジジの聖フランシスコの祈りを捧げたい。

聖フランシスコ・平和を願う祈り

「ああ主よ、わたしをあなたの平和の道具にしてください。憎しみのあるところに、愛をもたらすことができますように。争いのあるところにゆるしを、分裂のあるところに一致を、疑いのあるところに信仰を、誤りのあるところに真理を、絶望のあるところに希望を、悲しみのあるところに喜びを、闇のあるところに光をもたらすことができますように。ああ主よ、わたしに、慰められるよりも、慰めることを、理解されるよりも、理解することを、愛されるよりも、愛することを求めさせてください。わたしたちは与えるので受け、ゆるすのでゆるされ、自分自身を捨てることによって、永遠の命に生きるからです。死ぬことによってのみ、永遠のいのちによみがえることを深く悟らせてください。」 アーメン



聖墳墓教会

『あなたの手を貸して頂けませんか』

清掃グループ 佐藤悦子

教会内の各部屋、トイレ、廊下、階段、ホール等は当番を決めてお掃除しています。グループの人でお掃除する当番がありますが、ほとんど個人でご自分の都合の良い時間に掃除して頂いています。

当番は偶数月と奇数月に分かれますから、2カ月に1度しか回って来ませんので、時には忘れてしまう事もあります。

偶数月・奇数月の第1～第4土曜日の有る週の中の1回（1時間前後）1日です。

ご自分の当番週の何曜日でも、時間は午前でも午後でもご自分の都合の良い時間に掃除して頂きます。

第5土曜日の有る週は、偶数・奇数に関係なく第5土曜の当番として登録を頂いています。2月に掃除当番の更新、新規申し込みを受付ましたが、下記の表の様に、まだ当番が不在の場所もあります。（前はしていましたが聖堂内は現在外部に有料でお願いしています）いつからでも参加出来ますので皆様のご協力をお待ちしております。

当番表

個人

偶数月	聖堂前ホール 泣き部屋・1Fへの階段	1Fトイレ・玄関前ホール エレベーター前ホール	応接室・予備室 修道院前までの廊下
第1土曜の週	○	○	○
第2 〃	○	○	○
第3 〃	○	◎（日曜学校母親）	○
第4 〃	◎（①②の4人）		○
奇数月	聖堂前ホール 泣き部屋・1Fへの階段	1Fトイレ・玄関前ホール エレベーター前ホール	応接室・予備室 修道院前までの廊下
第1土曜の週	×	○	○
第2 〃	×	○	○
第3 〃	○	○	○
第4 〃	○	×	○
偶数奇数第5	○	○	○

グループ 又は 個人

偶数月	①図書室・フランシスコ室・食堂	②裏口までの廊下・奥トイレ2箇所
第1土曜の週	◎（4人）	
第2 〃	◎（3人）	
第3 〃	○	×
第4 〃	◎（4人）	
奇数月	①図書室・フランシスコ室・食堂	②裏口までの廊下・奥トイレ2箇所
第1土曜の週	×	×
第2 〃	×	×
第3 〃	◎（4人）	
第4 〃	×	×
偶数奇数第5	◎（5人）	

×は当番が決まっていない所です。 ◎グループ登録です。 ○個人登録です。

2015年2月度 教会委員会

日時：2015年2月5日（日）12：15～

出席：教会委員（小野、鈴木三、川島、小林、金原、茂木）、典礼（安永芳）、
信仰養成（洗川）、受付（津田、木村）、営繕（安永三）、広報（大坪）

1. 2015年1月～2015年3月の行事（予定）

- | | |
|-----------------|--|
| ① 聖体奉仕者研修 | 1月18日（日）～2月8日（日）計4回 13:30～
※18・25日@三軒茶屋、1日@瀬田、8日@渋谷 |
| ② （ボーイ）餅つき | 1月25日（日）教会サイドからコーヒー提供 |
| ③ 日曜学校・中高生会 BBQ | 2月15日（日）終了後、灰の水曜日用の灰作成 |
| ④ 灰の水曜日 | 2月18日（水） |
| ⑤ 洗礼志願式 | 2月22日（日） |
| ⑥ 四旬節黙想会 | 3月1日（日） |
| ⑦ 日曜学校受難劇 | 3月8日（日）8時30分のミサ後パネル劇を行う |
| ⑧ （幼）卒園式 | 3月14日（土）小野委員長出席 |
| ⑨ 枝の主日 | 3月29日（日） |
| ⑩ 聖週間 | 4月2日（木）～5日（日） |

2. 今月までの活動と気付き・反省点等

- * ボーイの餅つきに教会からの参加者が例年より少なかった。今回は教会側の告知が当日のみであったため、来年は2-3週間前から告知を行う予定。
- * 各委員会の構成メンバーの一覧表が必要なのではないか（出来れば写真入りで）。
- * 黙想会の昼食券にミサ時間を入れた方が良いのではないかな。

3. 各委員会から

- * 典礼：聖体奉仕者研修の開始時間で行き違いがあったので、今後は教会委員会にも詳細を連絡する。
1月18日の第1回には60名位が参加（内10名位が奉仕者以外の自由参加）。
灰の水曜日の為の灰作成は、子供たちも一緒に参加してもらう予定。
- * 信仰養成：特記事項なし
- * 財務：特記事項なし（2014年度財務報告は3月の委員会で実施予定）
- * 営繕：教会創立50周年以降の修繕経過報告及び今後の計画案
今後の修繕については財務と調整が必要なので現在検討中。
- * 広報：特記事項なし
- * 受付：特記事項なし

4. その他

- * 活動グループの活動内容等を積極的に紹介していきたい。バザー等で各活動グループの活動状況を展示できないか、次週の活動G合同会議に提起したい。
- * ボーイ/ガールスカウトで3月21日（土）に団まつり（ピザパーティー）開催。日曜学校、幼稚園、三軒茶屋小学校等にも呼びかけ中。あわせて、教会としてもボーイ/ガールスカウト、幼稚園と、特に子供たちに関連するようなイベントを中心情報共有と交流を行い、共同で盛り上げていくような形に持って行くように、教会委員会も日曜学校と連携しつつ支援を行う。

次回教会委員会は3月8日（日）12：15～

次回活動G合同会議は2月15日（日）12：15～

以上